

2023年

10月

# 病児保育だより



## いけだ小児科

お気軽にお問い合わせください

☎080-8587-6253



涼しい秋風に澄んだ空、大きく深呼吸したくなるような気持ちの良い季節になりました。一方で、インフルエンザを始めとする感染症には特に気を付けなければならない季節でもあります。新型コロナウイルス対策と合わせて引き続き健康管理には十分気を付けましょう。

## インフルエンザについて

インフルエンザウイルスにはA、B及びCの3型があります。

その年によって多少異なりますが、例年11月下旬～12月上旬頃に始まり、翌年の1～3月頃に患者数が増加し、4～5月にかけて減少していくケースが多いなか、今年は季節外れのインフルエンザが流行しているといわれています。

要因としては・・・

- ① 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い行われていた大規模な感染対策がインフルエンザにも有効であった為、免疫を獲得する機会が少なくなり免疫が低下した。
- ② 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたことにより感染対策が緩和され、ウイルスへの感染機会が増加した。

この2つが季節外れの流行につながっていると考えられます。

### ★感染経路★

咳やくしゃみによる飛沫感染、接触感染

### ★潜伏期間と症状★

感染して1～3日間ほどの潜伏期間後に、悪寒、頭痛、咽頭痛、倦怠感、筋肉痛、関節痛などを伴って発熱し（通常38℃以上の高熱）、嘔吐、下痢の消化器症状もしばしば見られます。発熱は1～5日続き、その後一旦下がった熱が、ぶり返すこともあります。咳や鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き解熱後に悪化しやすい傾向があります。

### ★診断★

鼻汁の迅速テストで約10～15分で判定されますが、発熱して一定時間経過しないと正確な診断はできないとされています。

### ★治療★

タミフルやリレンザ等の抗ウィルス薬を使用することが可能です。

### ★出席停止のめやす★

発症を0日として5日を経過し、かつ小学生以上は解熱後2日、幼児は解熱後3日経過していることが条件です。

### ✎インフルエンザ予防接種✎

ワクチンは感染や発症そのものを完全には防御できませんが、発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化や合併症の発生の予防に有効とされています

- 毎年10～12月に、13歳以下は1～4週間間隔（2～4週間隔が推奨）で2回摂取します
- 摂取してから効果が出るまで2週間かかります

計画的に摂取しましょう！！



### ★予防★

基本的に流行期に人混みを避けること、換気、マスクの着用、うがい手洗い、アルコールでの手指消毒が大切です

予防接種も積極的に打ちましょう

### 9月にご利用された方の病気

- 上気道炎 ・ 気管支炎 ・ 扁桃炎
- 咽頭炎 ・ 中耳炎 ・ HMPV

